

(様式1)

平成25年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 140	提案機関名 畜産技術所
要望問題名 トウフ粕発酵飼料の給与方法・内容の究明	
要望問題の内容 【背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等)】 トウフ粕を給与した過去の研究結果から、発酵させた飼料の方が肥育結果(格付け等)が明らかに優れていることが示されている。 試験研究機関と農業者の飼養管理方法の差(一般の飼養管理、飼料の給与回数や1回の給与量)の影響も考えられるため、まず詳細に把握していただきたい。 栄養成分は同じとしても、発酵の有無で微量成分等や、消化・吸収率に差があるはずなので、詳細な解明と、その差異が増体や脂肪交雑にいかに関与しているかを究明いただきたい。 影響を与えている要素が判明すれば、発酵飼料製造にかかる労力やスペースを減らすことができ、経費削減につながる。	
解決希望年限	<input type="checkbox"/> 1年以内 <input type="checkbox"/> 2～3年以内 <input type="checkbox"/> 4～5年以内 <input type="checkbox"/> 5～10年以内
対応を希望する研究機関名	農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> 畜産技術所 水産技術センター 自然環境保全センター
備考	

ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター 畜産技術所	担当部署	企画研究課
対応区分	実施 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 継続検討 実施済 調査指導対応 現地対応 実施不可		
試験研究課題名	(、 、 の場合) 高品質牛肉の生産技術の開発		
対応の内容等	これまで当所で実施した、トウフ粕の処理の違いによる肥育成績の差を調べた試験結果では、トウフ粕の配合割合によっては乳酸発酵処理の方が優れた肥育成績となりました。 県内肥育農家と当所との飼養管理方法については、飼料の給与回数や給与量については大きな差はないと思われませんが、給与飼料や飼養管理形態(群飼あるいは個体管理)に差が見られます。 現在、上記課題において、給与飼料の違いが肉質に及ぼす影響を調査研究中です。ご指摘の通り、発酵の有無により飼料の微量成分や消化率等、さらに肉質においても成分や食味に差が生じる可能性も考えられるため、発酵処理の有無が飼料及び牛肉のアミノ酸・脂肪酸に与える影響、さらに消化率やルーメン性状への影響について、上記研究課題の中で分析及び解析を実施していきます。		
解決予定年限	1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> 2～3年以内 4～5年以内 5～10年以内		
備考			